

1. 件名:交互運転にかかるPRAモデルに関する一般財団法人電力中央研究所等との面談

2. 日時:令和5年11月9日(木) 10:00 ~ 11:00

3. 場所:原子力規制庁 16階B会議室(オンライン開催)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部検査監督総括課 米林上席検査監視官、飯田検査評価係長、
沼田検査監視官

技術基盤グループ シビアアクシデント研究部門 濱口主任技術研究調査官
上田副主任技術研究調査官、下崎技術研究調査官

電力中央研究所 原子力リスク研究センター 研究アドバイザー

東京電力ホールディングス株式会社

原子力設備管理部 原子炉安全技術グループ 課長 他1名

株式会社テプコシステムズ

原子力エンジニアリング事業部 原子力安全評価技術部 課長 他3名

四国電力株式会社 原子力保安研修所

原子力安全リスク評価グループ グループリーダー 他2名

三菱重工株式会社 原子力セグメント

炉心・安全技術部 信頼性評価技術課 主席技師

5. 要旨

(1)一般財団法人電力中央研究所(以下、「電中研」という。)は、PWR/BWRプラントでの系統内のポンプ又はトレン等が交互運転を行っている場合の、PRAモデル化における扱いについて、配布資料(1)に基づき説明を行った。BWRプラントでは、現時点では、全ての系統が対称的に設計され、その系統の運用も対称的に行われていることから、交互運転をモデル化しなくとも問題無いとのことであった。

(2)原子力規制庁は、現状のモデル化の範囲では交互運転のモデル化は不要であるが、実際は重大事故等対策によっては、対称性が崩れる運用もあることから、そのような運用もモデル化すべきであり、そのために交互運転のモデル化も必要ではないかとのコメントをした。

- (3) 東京電力ホールディングス株式会社より、全炉心損傷頻度への影響を考慮した上で、必要に応じ非対称性のある重大事故等対処設備の運用のモデル化を検討し、その際交互運転のモデル化も検討することになるとの回答があった。

6. 配布資料

- (1) 交互運転にかかる PRA モデルの状況について(電力中央研究所等資料)

以上